

第3回

多文化社会学研究会 シンポジウム

グローバル化する

食文化と

ローカリティ

の変容

味覚の
世界から考える
多文化状況



国立大学法人
長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

日時 / 11月6日(金) 14:30~17:30

会場 / 文教キャンパス 総合教育研究棟2階 多目的ホール

人は、環境との関わりのなかで生業を営み、そこから食糧を手に入れてきた。食は人間と自然を結びつける物質的媒体として、また、人と人とを結びつける社会的媒体として、地域の社会生活の重要な土台となってきたといえる。グローバル化はこのような食文化に大きな変化を引き起こした。食材の流通拡大は味覚に変化をもたらし、地域の食文化を多様化させ、異なる食文化を身近なものにし、そして、多様な食文化が混在する状況を各地に生み出している。地球上のあらゆる環境が、人の身体に直接結びつけられるようになったことで、それまで考えられなかったようなリスクを世界中から個人の身体へと運び込む経路ともなる。本シンポジウムでは、こうしたグローバル化する食文化とローカルな食文化の再認識というテーマに関して具体的事例をとりあげ、それら諸問題の多層的な関わり合いを明らかにすることによって、食文化のグローバル化状況を捉えるための新たな視角を考えたい。

プログラム

司会 / 増田 研

14:30~14:35 学部長挨拶

14:35~14:45 趣旨説明 / 滝澤克彦

基調講演 / 富沢寿勇 (静岡県立大学)

14:45~15:35 食をめぐる異なる価値との共生：
グローバル化の中のハラールとローカリティ

15:35~15:45 休憩

講演 / 佐治 靖 (福島県立博物館)

15:45~16:15 「生活の質 (quality of life)」としての在来知：
原発事故避難地域における二ホンミツバチの伝統養蜂をめぐって

講演 / 波佐間逸博

16:15~16:45 変動する東アフリカ牧畜社会の食と記憶

16:45~17:00 コメンテーター 才津祐美子

17:00~17:30 ディスカッション

主催 / 長崎大学多文化社会学部

文教地区事務部 総務課 多文化社会学部総務班 TEL.095-819-2934